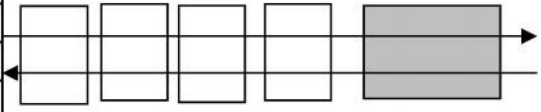


橋梁カルテ(管理項目・構造大要(1))

構造物名	〇〇橋梁	経年[年]	〇〇	概略図 
桁番号	〇〇	図面番号	〇〇〇	
桁総数(連数)	〇	構造物管理者	〇〇〇〇〇〇〇	
所在地	〇〇県〇〇市	竣工年月	〇〇年〇月	
路線名	〇〇線	架設年月	〇〇年〇月	
区間キロ程[km]	〇〇k〇〇m	製作年月	〇〇年〇月	
橋梁種別	〇〇〇〇〇	カルテ登録日	〇〇年〇月〇日	
構造種別(橋梁形式)	鋼橋			

上部構造		下部構造		外 力	
設計荷重の種別	塗装面積(桁外面)[m ²]	基礎形式	通過トン数	(万トン)	
支間(径間長)[m]	塗装面積(桁内面)[m ²]	橋台形式	最重量車両		
桁重量[tf]	塗装面積(その他)[m ²]	橋脚形式	最速度車両		
材 質		材 質	最頻度車両		

塗 装					
塗装履歴					
塗装仕様					
適用箇所					
劣化度					

構造大要					
全長[m]	桁の組立	高強度鋼の使用	RB～桁最下端[mm]		
RB～桁座面[mm]	床(床版)形式	軌道形式	斜角[度]		
曲線半径[m]	カント[mm]	スラック[mm]	桁と軌道の偏心[mm]		
勾配[%]	ロングレール	シュー構造	シュー座の種類		
主桁(構)高さ[mm]	腹板の高さ[mm]	主桁(構)本数	主桁断面		
主桁中心間[mm]	縦桁中心間[mm]	上下線連結構	伸縮装置		
車線数(線数)	安全設備	付帯物等	桁下環境		
桁下空頭[m]	騒音対策	耐震対策	附属図		
マイクロ番号	設計会社	製作会社			

橋梁カルテ（管理項目・構造大要(2)）

構造物名	〇〇橋梁	桁番号	〇〇	図面番号	〇〇〇
------	------	-----	----	------	-----

示方書類

設計示方書		製作示方書	
-------	--	-------	--

構造物のチェックポイント

ボルトの種類		火災による被害予測		架設時の無理		河川の状況	
基礎の異常による変状		周辺環境		桁下防護工		事故・災害の被害	
縦桁のフランジ構造		主桁端部の構造		端補剛材の形式		地質種別	
近くに踏み切り		土砂・落石の可能性		パイプ高欄、支柱		橋上にレール継ぎ目	
腐食環境		降雪の影響		枕木受		溶接補強桁	
ローラーシューに鎖錠子があるか				ミルスケール(黒皮)			

備考

橋梁カルテ(劣化予測・維持管理方針)

構造物名	〇〇橋梁	桁番号	〇〇	図面番号	〇〇〇
------	------	-----	----	------	-----

○検査履歴

全般検査(一般)、全般検査(特別)、ペイント検査	全般検査(一般)、ペイント検査	全般検査(一般)、ペイント検査
--------------------------	-----------------	-----------------

○対策履歴

対策年月				
対策内容				

○保有性能と劣化予測

損傷度		耐力		き裂発生寿命		使用制限等	
-----	--	----	--	--------	--	-------	--

予測年月	予測期	予測内容	診断年	定量的診断
2017年11月	2年後			
	4年後			
	10年後			

○維持管理方針

重点検査項目、監視項目(安全および長寿命化の面から)

No.	部材・部位	項目	対処方針		FCM
			対処状況	対処方法	

下部工に対するコメント

想定耐用年数	200年
--------	------

※監視項目:赤字で記載、重点項目:黒字で記載、既存損傷■で表示

要求性能に対する維持管理方針

耐力性について	
耐疲労性について	
走行安全性について	
公衆安全性について	
耐震性能について	
その他	

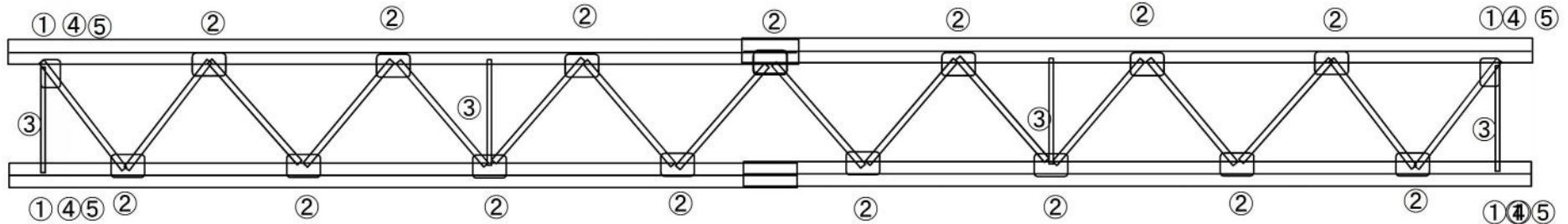
取替え方針(線区の重要性、現地状況等を考慮して)

重点検査項目、監視項目位置図

橋梁カルテ(劣化予測・維持管理方針)

構造物名	〇〇橋梁	桁番号	〇〇	図面番号	〇〇〇
スケルトン図					

凡例:
 監視項目: 赤○数字
 重点項目: 黒○数字
 既存損傷箇所: 黄○数字



① :	② :	③ :	④ :
⑤ :	⑥ :0	⑦ :0	⑧ :0